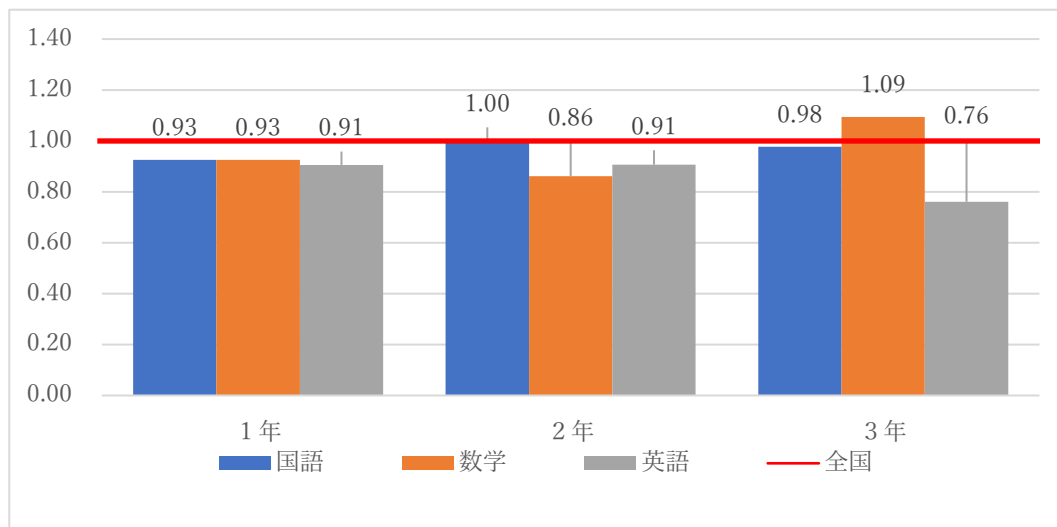


令和5年度 全国学力・学習状況調査及び学習到達度調査について

第七中学校区 第七中学校

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



※中学1・2年生は学習到達度調査、中学3年生は全国学力・学習状況調査の結果

○調査結果についての分析、今後の改善方策

学習到達度調査	国語	2年生は昨年度よりも向上が見られた。「主体的に学習に取り組む態度」の観点では全国平均を大きく上回った。漢字、語句、文法、書写の取組を重視しつつ、複数の資料（文章）を比較・検討する活動に取り組む。
	数学	「思考・判断・表現」の観点の問題で全国平均を大きく下回った。考える力の養成が必要である。計算力の定着に取り組むとともに、関数・図形の問題に重点的に取り組む。
	英語	学年が進むにつれて伸び悩む傾向が見られる。学習意欲の高さを生かしつつ、単元導入時には既習内容の確認を丁寧に行う。
全国学力・ 学習状況調査	国語	全国平均をやや下回ったものの、領域や問題形式による苦手分野の偏りは見られない。学習指導要領の学力観や入試問題の傾向を明確に意識した授業を行う。
	数学	領域、観点、問題形式のどの角度から見ても全国平均を上回っており、確かな学力を身につけている。授業で扱う問題のレベルを上げながら、授業内での復習を徹底し、定着を図る。
	英語	全国平均を大きく下回った。普段の授業には意欲的に参加しているので、基本的な英文の反復練習に力を入れる。
	質問紙	学習意欲や生活リズムなど、全国平均と大きな差はない。自己に関する質問については、「自信のなさ」がうかがわれる。達成感が持てるように、学習活動の工夫を図っていく。

○学力向上の取組

【 中学校区 】

小小、小中間で、あらためて互いの取組をよく見て、知る。その上でねやがわスタンダードを定着させる取組を実践していく。また家庭学習が本校区の重点課題と捉え、小中一貫した取組について研究する。

【 学校 】

学力向上の成果をあげている学年・教科の担当教員を核に、積極的に授業研究を行い、ねやがわスタンダードをしっかりと定着させながら授業力の向上を図る。